

胆沢ダムにおける 震災被害の復旧までの経緯と施工

Restoration Work of Isawa Dam Damaged by Earthquake

▶キーワード：岩手・宮城内陸地震、震災復旧

岡本義洋*

*北日本（支）胆沢ダム（出）

概要

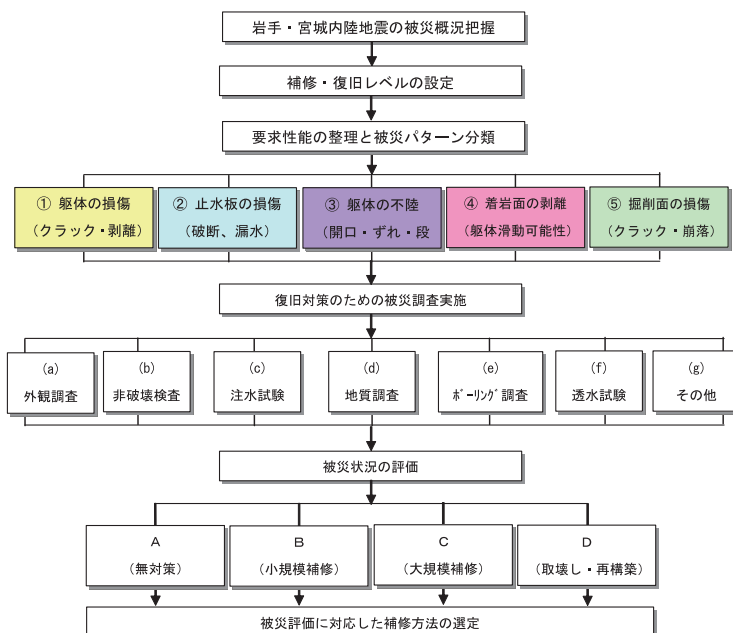
本工事は、洪水調節を主たる目的とし、北上川水系胆沢川に建設する堤体積 1,350 万 m³ を有するロックフィルダムの関連工事として行われる洪水吐き打設工事である。

胆沢ダム洪水吐きは、平成 20 年 6 月 14 日の岩手・宮城内陸地震により被災し、躯体・基礎地盤に甚大な被害を受けた。被災時、洪水吐きは全体の約 58%の進捗状況であり、早期の打設再開を目指し被災直後より被災調査を行うとともに、復旧工事を行ってきた。

本稿では、洪水吐きコンクリートの被災復旧基本方針および洪水吐き被災調査の概要、被災パターン別（躯体の不陸対策、止水板の損傷対策、クラック・欠損部の損傷対策、躯体の安定対策）の具体的な対策工について報告する。

成果

- 既施工コンクリート構造物・施工途中のコンクリート構造物の震災時の復旧方針、調査方法の体系化を行うことができた。
- 構造物として要求される性能、他業者との調整、健全な箇所への影響を被災箇所別に整理・検討し施工することができた。



図一 洪水吐き被災対応検討フロー



写真一 止水板再設置完了（止水板の損傷対策）



写真二 H型鋼設置完了（躯体の安定対策）